

当面のスローガン

- 差別事件の糾弾闘争を強化
- 全ての学校で同和教育実践を!
- 全自治体で同和・人権行政を!



解放新聞社山口支局

〒753-0074 山口市中央1-5-3
 TEL 083-923-2303
 FAX 083-921-1919
<http://y-kaihou.jp>
 編集発行人 松岡 広昭



参加者一同で今年一年の決意を込めての「団結頑張ろう」



記念講演で山口県連の仲間に檄をとばす組坂中央執行委員長

県連旗開きが盛會に

組坂委員長が記念講演

2008年県連旗開きを1月27日、山口市のホテルタナカでひらき、同盟員や関係者など80人が出席し、新年の決意と交流を深めた。

旗開きに先立ち、組坂繁之・部落解放同盟中央執行委員長が「これからの部落解放運動」と題して記念講演を行い(2

面詳細)、午後から旗開きを開催した。主催者あいさつで松岡広昭・県連委員長は「人権侵害救済法や県内でのあいつ

ぐ差別事件など山積する課題に多くの人々と連帯して闘おう」と訴えた。来賓あいさつで組坂繁之・中央執行委員長は「人権教育・啓発推進法」の第一

信・参議院議員、岡本博之・自治労山口本部執行委員長、吉川俊雄・山口同宗連議長、麻野他郎・山口県同教委員長などから連帯のあいさつを受けた。

懇親会では伊藤道雄・山口県環境生活部長の音頭で乾杯、その後、各支部・共闘・行政関係の参加者から今年一年の抱負・アピールがおこなわれ、最後に浅田政美・県連副委員長の「団結がんばろう」で連帯と解放運動の邁進を確認した。

山口同宗連第21回研修会 主体性を持った同宗連へ



曹洞宗の取り組みを報告する吉川俊雄・山口同宗連議長

山口県人権・同和問題に取り組む宗教者連帯会議「第21回研修会」が2月14日山口市の本願寺山口別院において開催され、県内で人権・同和問題の解決に取り組む宗教者など130人が参加し学習を深めた。

山口同宗連は毎年全体研修会をおこなっており今年で21回を迎える。主催者あいさつで

は吉川俊雄・山口同宗連議長が「自己変革に目覚め、主体性を持った同宗連の活動を進めていかなければいけない」と訴えた。

開会行事のあと、取り組み発表として、曹洞宗から吉川俊雄さんから実践報告がおこなわれた。報告では、曹洞宗山口県事務所の実践報告が行われた。今年には、本部作成のビデオ・討論会、水平社博物館への現地視察、「小欲知足の問題について」討論会など3回の研修会などについての報告がおこなわれた。

県外視察研修会(ご案内)

日時	3月27(木)~28(金)
場所	奈良県御所市、橿原市
内容	27日午後 西光寺(清原隆宣さん聞き取り)、水平社博物館・柏原地区FW、 28日午前 おおくぼまつくり館(洞村強制移転について)・FW
問い合わせ	山口県人権啓発センター TEL083-922-3859

益田副議長からは「宗教者は命と向き合う仕事」「差別によってその命を傷つけられたら回復するのも宗教者の仕事」などと、日々のくらしのなかでいのち(生命と心)と向き合うことについて自身の実践と語られた。

記念講演では、川口泰司・山口県人権啓発センター事務局長からの「差別についてなんやねん?」若者からのメッセージと題して、自身の生い立ちや、山口の部落差別の現実や同和教育の必要性などが熱く語られた。

これからの部落解放運動

部落解放同盟中央執行委員長 組坂繁之さん



これからの解放運動について熱く語る組坂委員長

27歳から運動を

私は27歳まで解放運動はしていません。それまでは、部落の人間がまじめに働き、まじめに生きていけば差別されない、「寝た子を起すな」という考え方があった。どうしてこういう差別があるのかも分からない。悶々としていた日々を送っていた。

そんな時、職場の若い女性が4本指を突き出して「あそこ

「どうしてこういうことになったのか」と聞かれても、何も応えられなかった。そんな自分が情けなく、自分自身も勉強しなければと痛感していた。

ちようどその時期、学力保障としてムラの高校生たちに勉強を教えてくれる先生たちがいた。その先生たちと一緒に必死になつて部落のことを勉強した。

解放理論についての本などほとんど読みあさっていくうちに「なるほど、これは運動しないといけない」と思った。なかでも村越末男さんの『差別の論理と解放の思想』という本に一番感銘を受けた。

部落民のための運動はダメ

それまで私は「部落解放運動は、部落の子どもの進路保障、生活を守るといふように、部落大衆のために努力し、闘争する」ということが大事だし、当たり前だが、それだけで本当にいいのか、それだけではないんじゃないか」と思っていた。もっと普遍性があるものでなければと思っていた。

その本には教科書無償闘争のことが書かれていて衝撃を受けた。最も教育から疎外されてきた部落の子どもたちにスポーツをアテて「義務教育は無償とする」という憲法26条を保障する」という闘い。

同時に部落の人たちと同じように苦しんでいる部落外の子どもたちにもスポーツをアテて、最終的にすべての子どもたちの幸せにつながる教材書無償闘争。私はこの時に「これだ」と思った。部落解放運動はこのよ



組坂委員長の話に聞き入る参加者

原点は水平社宣言

「人の世に熱あれ、人間に光あれ」という水平社精神、人間解放運動。部落解放運動の原点は全国水平社宣言である。

『橋のない川』を書いた住井すゑさんが「日本でただ一つの文化遺産を挙げよ

「教科書は人権課題の宝庫」②

山口県人権・同和教育研究協議会 事務局長 松本卓也

身分制度をどうとらえるか (近世編)

ある日突然、政治権力がつづいたのではない

しかし、近年の各地の部落史研究から「差別でなく、排除の差別的であった」という視点の転換です。

『武士・百姓、町人、百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた身分の人々』という表現になりました。

05年度の改訂では、『武士、百姓、町人、百姓や町人とは別にきびしく差別されてきた身分の人々』という表現になりました。

これまでは、身分制度の説明を江戸幕府が「士・農・工・商・え

た・ひにん」という身分を、ある日突然に民衆の分断支配のために

明してきました。多くは、序列をもって説明し、ピラミッド型や階段型の図式で「上見て暮らすな、下見て暮らす」とさらに「低い身分」をつくったと説明

私には運動で行き詰まったり、悩んだときに必ず全国水平社宣言を読む。このような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を読む。このような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。

水平社宣言を忘れたような運動なら私は生涯をかけてこの運動をやつていこうと決意した。



山口県教委差別紙芝居事件

1987年6月27日、山口県教委主催の「同和教育婦人リーダー研修会」において、県教委同和教育課指導主事が、小学校での同和教育の実践として子どもたちが作製した「土農工商から四民平等へ」と題された紙芝居を提示した。

その紙芝居は、指導主事が9年前(1978年)6年生担任時に子どもたちにかかせたものであった。土農工商「その他」という五つの身分階層を階段状に表現し、「その他」の人が、丸裸に腰みの一つ、髪はざんばらで、右手に棒をもった姿で描かれていた。

このような差別的な部落観を子どもたちに意識化させ、さらに広げることが県教委によってなされていた。